

THE PROJECT TECH & MECH

'90 PONTIAC FIREBIRD TRANS AM GTA



“90年型トランザムGTA” デ일리・ドライバー化計画。

Vol.4 ボディワーク・本塗装編

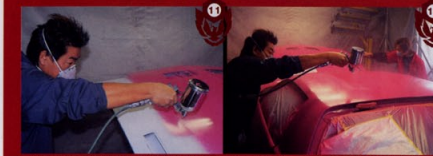
先月まで下地の準備は完了し、今はよいい本塗装、下塗りからスタート。そしてクリア塗装までの工程をお届けする。プライマー状態から、美しく塗られた姿になるのは、まさに輪が輪になるのが如く、ペイントを終えたばかりの、濡れたような輝きを放つボディを眺める間は、何度レストアを体験しても、たまらないものがある。



■TEXT/PHOTO/よしもと和知
■THANKS/メイト・イン・U.S.A. 電話020-84-5315 www.madenusa-mi.com
カラー・デザイン/スタイル 電話040-72-7274



※17 トペイントワークは川上と森田氏のみで同時に行われる。より細心の高い作業であるが、ふんばりの精神でやっていると手ずかぬ作業といえるだろう。もちろん、このコンビには何の心配もなく、裏にリスモがみに作業は進んでいった。



※8 中肉塗装ブース内で作業ではいつもストロガを使用すべき面かを考える。エアガンで吹き付けられる塗料が瞬間に舞いストロ光が反射してしまうので、正確な図面も参照し、最終的な仕上がりをイメージしながら作業を進める。しかし、その場で見た目の状態を把握することも必要。20分程度は塗り終わる。その高気圧の風を直接当てられ、そこで一気に乾燥した方が、つまりその後の光沢とストロによる補助光を待つ20分程度は、特にグラフィックが重要である。その高気圧の風を確認できるように、試してみよう。



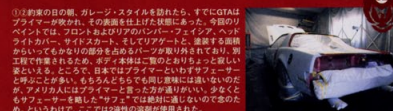
※10 中肉塗装ブース内で作業ではいつもストロガを使用すべき面かを考える。エアガンで吹き付けられる塗料が瞬間に舞いストロ光が反射してしまうので、正確な図面も参照し、最終的な仕上がりをイメージしながら作業を進める。しかし、その場で見た目の状態を把握することも必要。20分程度は塗り終わる。その高気圧の風を直接当てられ、そこで一気に乾燥した方が、つまりその後の光沢とストロによる補助光を待つ20分程度は、特にグラフィックが重要である。その高気圧の風を確認できるように、試してみよう。

下地処理を終え、すでにプライマー状態となったGTA。まずは“下塗り”からスタート——。

すでに2ndプライマーのハイワイヤメント、5mmペーストに塗布は完了した。下地処理を終え、すでにプライマー状態となったGTA。まずは“下塗り”からスタート——。

この下塗り工程は、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。ハイワイヤメントペーストは、塗料の付着性を向上させるために使用される。また、この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。

この下塗り工程は、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。ハイワイヤメントペーストは、塗料の付着性を向上させるために使用される。また、この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。



※13 目的の塗料、カラーを正確に塗布する。すでにGTAはプライマーが吹かれ、その表面を仕上げた状態になった。今回のリペイントでは、フロントとリアのローワーフェイスは、ホワイトカー、サイドスカート、そしてリアゲートと、塗装する面積が広い。その部分の塗料の付着性を向上させるために、特製の下塗りペーストを使用する。このペーストは、塗料の付着性を向上させるために使用される。また、この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。



※14 まずは下塗りから、これは最終的な色の乗りをよくなるためのプロセッサが、これにより下塗り工程が完了する。その後、本塗料の塗布が行われる。この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。



※15 まずは下塗りから、これは最終的な色の乗りをよくなるためのプロセッサが、これにより下塗り工程が完了する。その後、本塗料の塗布が行われる。この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。

この下塗り工程は、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。ハイワイヤメントペーストは、塗料の付着性を向上させるために使用される。また、この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。

この下塗り工程は、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。ハイワイヤメントペーストは、塗料の付着性を向上させるために使用される。また、この工程では、車体の表面を滑らかにし、塗料の付着性を向上させるために行われる。

想像以上の反響を受けて、改めてFトデイの雄偉な人気を誇る。とてでも新しいこと、連続してまた予備以上の反響を受けて、身がたてに一般のカー・ニュースの方から、声が高まっている。またFトデイに注目しているファンが多いことを改めて思い知った。より正確にいうならば、カマを動かさずFトデイの人氣が、ここに高まっている。これを強く感じている。87年型以前のトランザムGTとカマ・P.O.R.Z.をはじめ、オポ・ヨヨ・O.Z.も、これらと区別して、それぞれ350PT、1-88が運送可能であり、それをチェイスしたFトデイは、当時でも、レイトマンズとして、ニュー・エリート・マンズとして、本國の専門誌でも取り上げられていた。そして現在、再スタートが、オポ・クラッシュ、モデルとして登場されるようになった。もちろん、

